



オレゴン便り

発行: 中野壘紀子

2013年



8月



アメリカの学校の夏休みは、約2ヶ月半～3ヶ月あります。日本のように宿題ありません。この長い夏休み、アメリカの子どもたちはどのように過ごしているのでしょうか。

夏休み中、様々な団体がサマーキャンプを企画しています。キャンプと言っても、テントに泊まるキャンプではなく、日帰りで行われるサマースクールのようなものです。例えば、バスケットボール部の部活動のような活動、陶芸や手芸、水彩画などを体験できるアートキャンプ、料理を学ぶキャンプ、理科の実験を体験するキャンプ、英語や数学や理科の補習授業、もちろん、宿泊を伴うアウトドアキャンプもあります。子どもたちは、長い夏休みを、このようなサマーキャンプに参加したり、友人と遊んだり、家族と旅行に出かけたりして過ごしているそうです。

私のホストシスターも、6月にまず家族旅行に出かけ、その後、6月下旬に2週間のアートキャンプに参加し、7月下旬から8月にかけては3週間の日本語キャンプに参加していました。そして、8月下旬にはもう一度、家族旅行に出かけます。

今月号のオレゴン便りでは、ホストシスターも参加し、私もインストラクターの一人としてボランティアで参加した、日本語キャンプ“Aozora Gakkou Japanese Immersion Camp”についてお伝えしたいと思います。

Aozora Gakkou Japanese Immersion Camp



7月22日(月)から8月10日(土)までの日曜日を除く3週間、私の派遣校の Sheridan Japanese School(SJS)の校舎を会場に、サマーキャンプ“Aozora Gakkou Japanese Immersion Camp”(通称、青空キャンプ)が開催されました。このキャンプは、SJSの日本語プログラム・ディレクターのアンディー・スコット先生の主催で行われており、今年で4回目になります。対象は小学生から高校生までで、SJSの生徒以外にも、普段は別の学校に通っている子どもたちも参加できます。9月から新4年生としてSJSに入学する児童も5～6人参加していました。また、ポートランド近郊から片道1時間半かけて車を運転して参加している高校生もいました。ユージーン市からシェリダンでホームステイをしながら参加している生徒や、カリフォルニアから母親と参加している生徒、また、日本からも小学生の男の子が一人参加していました。参加生徒は合計70～80人ほどで、3週間すべて参加する子どももいれば、1週間だけ参加する子どももいたので、各週で見れば、60人くらいの参加がありました。

青空キャンプの日程を紹介します。朝は8時半から始まり、夕方4時15分に終わります。午前中は40分間のレベル別の日本語クラスが2コマと、60分間のワークショップが1コマ行われました。昼食は、近くの公園に行きランチを食べます。午後のワークショップは日によって活動内容が異なりましたが、“Japanese food rotation”の日は、30分ずつ、たこ焼き、お好み焼き、おにぎり、電子レンジ餅を作る体験をローテーションし、“Japanese game rotation”の日は、新聞じ



やんけんゲームやだるまさんが転んだ、フルーツバスケット、鬼ごっこを体験したりしました。“Japanese



national holiday rotation”では、お正月やこどもの日、成人の日について学びました。また、“Japanese art rotation”の日は、書道や折り紙などの体験が行われました。さらに、「運動会」と題して、ムカデレースや玉入れ、しっぽ取り、借り物レースを行ったり、弓道をした日もありました。

週に1回、学校の校舎に泊まる Overnight もありました。子どもたちは、寝袋を家庭から持参します。夕食は、日本人スタッフを中心に、子どもたちに手伝っ

てもらいながら、1週目は肉じゃが、2週目が手巻き寿司、3週目はカレーライスを作りました。肉じゃがは、ベジタリアンや牛肉や豚肉を食べない子どももいたので、豚肉、チキン、肉なしの3種類を作りました。手巻き寿司は小学生には大人気でしたが、中高生には好き嫌いが見られました。カレーライスは、日本の子どもたちと同じように、アメリカの子どもたちにも大人気でした。うれしそうに食べている子どもたちの顔を見ていると、がんばって準備してよかったなど、心から思いました。



書道



弓道



こどもの日



フルーツバスケット



運動会「玉入れ」



夕食「手巻き寿司」

日本語クラス

私は、小学2～4年生の子どもたちの日本語クラスを3週間担当し、自己紹介や数の数え方などを教えました。クラスは、小学生15人を5人ずつの3グループに分け、そのグループに一人ずつ、SJSの高校生が peer tutor として付いてくれ、数字カルタをしたときにはジャッジになったり、日本語で名前を書くレースではチームリーダーになったりと、大変頼もしかったです。担当した子どもたちのほとんどは今回初めて会いましたが、すぐに仲良くなり、とても楽しい3週間を過ごせました。みんな素直で元気に一生懸命日本語を覚えようとしている姿はとてもかわいらしかったです。





ワークショップ

ワークショップは、クッキング、和太鼓、カラオケ、武道、マンガ、お盆と盆踊りの講座が開かれました。私は、1週目はお盆と盆踊りのアシスタントインストラクター、2週目はクッキング、3週目はカラオケのメインインストラクターを務めました。

クッキングでは、夕食の手巻き寿司の野菜を切ったり、卵焼きを作ったりしました。味噌汁や米粉のどら焼き、パンケーキミックスとたこ焼き器で、中にあんこを入れてベビーカステラを作った日もありました。別のインストラクターが担当の日には、カレーうどんや白玉団子、かき揚げ、コロッケなどを作っていました。どの日本食も大人気でした。



カラオケのワークショップでは、最近日本でメジャーデビューした、オレゴン州ポートランド出身の J-POP 歌手、ニコラス・エドワーズさんを紹介し、彼が歌う映像に合わせて5～6曲を何度も練習しました。最後はカラオケ大会ということで、みんなの前で発表しましたが、繰り返し練習したので、歌詞やメロディーを覚え、とても上手に歌えるようになっていました。オレゴン州の学校で日本語を学び始め、高校時代とその後の日本での生活で、あんなにも日本語を流暢に話せるようになったニコラスさんの映像に、同じようにオレゴンで日本語を学習している SJS の生徒た

ちは大変感銘を受けていました。日本語をもっとがんばって勉強しようという新たなモチベーションにつながっていただきたいと思います。



コロッケを揚げています



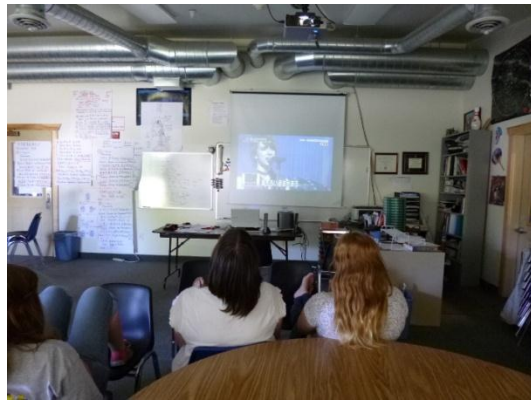
米粉でどら焼き作り



マンガのワークショップ



盆踊りのワークショップ



ニコラス・エドワーズさんの映像を鑑賞



カラオケ練習

Field Trip

第1・2週目には、Field Trip（校外学習）も行われました。1週目は、オレゴン・コーストに行き、ビーチで砂の城を作ったり、相撲大会をしたりしましたが、強風のため予定したスイカ割りにはできず、翌日に学校で行いました。2週目は、ポートランド近郊に行き、日本食レストランで昼食をとったあと、ボーリングをし、日系スーパーのUwajimaya で買い物をしました。何をかうかに注目していると、ハイチュウやラムネ飲料を買っている子どもが多くいました。好きな食べ物に国境はないですね。



黄色いスクールバスで出発



砂の城を作っています



ビーチで相撲大会



スイカ割り



2つのスペシャルイベント

このサマーキャンプ中に、これまでの青空キャンプとは違ったことを実施したい、アメリカの子どもたちに体験したことのないことを体験させてあげたいと、以前からずっと思っていました。というのも、日本語や日本文化を普段のSJSの授業で学んでいる生徒たちにとっては、新しい日本文化の経験というのはそれほど多くないように思えたからです。また、私がこの青空キャンプに3週間も参加できるのは、今年が最初で最後です。

そこで一つ企画したのは、「流しそうめん」です。SJSにティーチング・アシスタントとして派遣されているもう一人の日本人の方と協力して、5月から計画を立て、準備してきました。青空キャンプの最後のメイン行事として、最終日の8月9日(金)午後に行いました。

もう一つは、青空キャンプの開始直前に突然決まったものです。前号でお伝えした6月末の世界・ビート・フェスティバルで知り合いになった金沢出身の舞踊家、孝藤右近さんが東京で主宰している「刀エクササイズ」を、スカイプのテレビ電話を使って教えてもらえることになったのです。

スカイプで東京から「刀エクササイズ」のレッスン

日本とアメリカ・オレゴン州は、サマータイム実施時で16時間の時差があります。スカイプを使った試みに関しては、アメリカに派遣される前から、いつか日本の高校生にSJSの生徒とスカイプでやりとりをするチャンスを与えたいとずっと思っていたのですが、この「時差」という問題を前に実行に移せていませんでした。



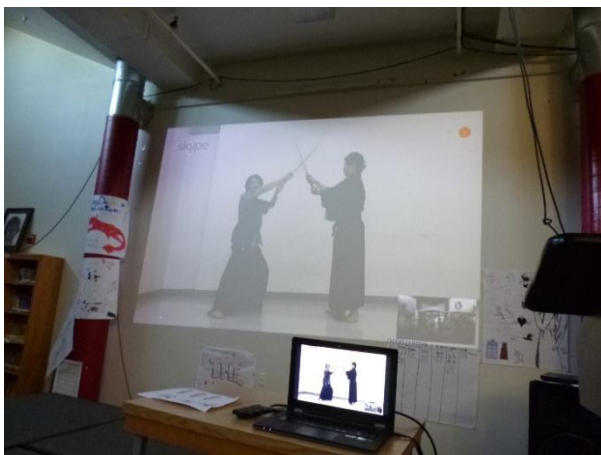
青空キャンプ中、Overnightという泊まりの日があったことで、アメリカ時間の夜7時半（日本時間では昼の11時半頃）から、スカイプによるレッスンをしてもらえることになりました。

レッスンの事前学習として、右近さんの弟の孝藤左近さんが作ってくださったワールド・ビート・フェスティバルでの彼らのパフォーマンスをまとめた映像や、右近さんのマネージャーで今回のレッスンのコーディネートをしてくださった角田知弘さんが作ってくださったパワーポイントを使い、誰にどのようなことを習うのかを説明しました。その後、レッスンで使われるであろう、「右」「左」「斜め」「前

「上」「下」などの日本語を勉強しました。最後に古新聞で刀を作りましたが、1本では足りず、何本も作っている子どももいました。

本番では、レッスン前に子どもたちが日本語で名前や日本の時刻を質問したり、自己紹介をしたりしました。日本にいる日本人と、生で会話をしたのは初めてという子どもたちばかりだったので、みんなとてもうれしそうで、休憩中も次々にカメラの前に立ち、質問したり話しかけたりしていました。

レッスンでは、20分ずつの授業を4回してもらいました。「真っ向斬り」を習ったあと、ペアになり、上、下と順に斬る「天地」、忍者ジャンプ、最後は忍者ジャンプをしながら「天地」を行うという発展編まで進みました。男子も女子もとても楽しそうで、ある男子児童は、あまりに楽しいからと3回連続でレッスンに参加していました。最後に右近先生から、「これで皆さんも侍ですね」と言われ、満足げな顔を浮かべる子どもたちが印象的でした。



私にとっても、また右近さんにとっても初めての試みのスカイプレッスンでしたが、大成功で、翌朝になっても、「中野先生、あんなに素晴らしい機会を与えてくれてありがとう」と生徒たちから言われ、とてもうれしかったです。

今回は、すべてボランティアでしていただきました。このような素晴らしい機会を与えてくださった右近さん、角田さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今回をきっかけに、孝藤右近さんと角田知弘さんは共同主宰で、孝藤右近「SAMURAI 6」という6人侍殺陣・剣舞チームで、今後、日本の侍文化を世界中の子どもたちに伝えるというボランティア活動を始めることにしたそうです。海外だけではなく、日本国内の小学校などでも活動したいと言っておられました。このようにして日本文化がどんどん世界に伝わっていけば、とても素晴らしいと思います。



事前学習の様子



一緒に記念撮影



SAMURAI 6 の皆さん

流しそうめん

日本人ティーチング・アシスタント(TA)の5月の授業で、生徒たちはそうめんを食べ、そうめんも大人気だったので、食べる前に紹介した「流しそうめん」の映像に釘付けになっていました。その姿を見たとき、私たちは、「青空キャンプで流しそうめんをしよう」と心に決めました。まずは、太い竹をどこで入手するかが問題でした。幸い、ホストファミリーの友人がユージーンに立派な竹林を持っているということで、太い竹がユージーンから2時間かけてマクミンビルまでやって来ました。次は、どうやって半分に切るかですが、これは以前勤務校していた特別支援学校で、夏休みの登校日に流しそうめんを学年で行ったことが何度かあり、技術の先生が教えてくださいました。そのやり方を生徒の保護者に説明し、校庭で切ってもらいました。私の日本語クラスの子どもたちも一緒に見学しました。最後に保護者が竹の切り口もきれいに磨いてくださって、立派な流しそうめん用の竹が完成しました。

次はセッティングです。これは前日、学校にあった椅子や机、ロープを使い、高校生にも手伝ってもらいながら TA と設置しましたが、なかなか大変でした。

そして、いざ本番当日。日本からボランティアで青空キャンプの手伝いに来てくださっていた、私の以前の勤務校の先輩の先生方お二人、私が2年前に担任をした生徒で大学1年生の女の子、TA、SJSの高校生たちが協力して、朝から60人分のそうめんをゆで、準備してくれました。

60人を4グループに分け、流しそうめんのスタートです。ま



ずは、一人ずつ練習から始めました。箸を上手に使いなくても、フォークでやるという子はあまりおらず、何とかがんばって箸で麺をつかもうとしていました。練習のあとは、流れてくるそうめんを自由につかみ、食べたい子どもたちは、必死に周りとの競争です。少しずつ取っては食べるというのではなく、たくさん麺を取って器を盛りだくさんにしてから食べる、というのがアメリカ流なのか、そんな風にして食べている子がほとんどでした。

4グループ終了後、麺がまだ余っていたので、もう一度食べたい子がいたら来るように促すと、小学校低学年の竹を切るの

を見学した子どもたちがたくさん戻ってきました。この流しそうめんは、相当に楽しかったようです。たくさんの方々の協力があってこそ、成功した今回の流しそうめん。ご協力いただいた方々に大感謝です。ありがとうございました。



お盆祭り

青空キャンプの授業自体は、流しそうめんをした8月9日(金)で終わりました。最後に発表会もあり、盆踊りやカラオケ、和太鼓、武道の各ワークショップに参加した生徒が、みんなの前で成果を披露しました。



8月10日(土)は、SJSの学校行事でもある「お盆祭り」という行事が行われました。青空キャンプに参加していた peer tutor たちや私たちインストラクター、保護者、日本からボランティアで来てくれていた先輩方や教え子の大学生が、食べ物や書道、浴

衣の着付け、日本のゲームなどのブースを担当しました。この行事は地域の方々にも開かれていて、学校周辺の住民も多く訪れていました。私はたこ焼きのブースを担当しました。初めて食べた方がおいしいと2皿目を買いに来られたこともありました。青空キャンプの成果として、盆踊りの発表もしました。子どもたちが円になってとても楽しそうに踊っていました。





和太鼓ワークショップの発表



けん玉の体験ブース



お盆祭りの様子

日本からのゲストボランティア

今回の3週間の青空キャンプ中、私の知り合いの方々が4名、ボランティアとして手伝いをしに日本から来てくれました。2週目には、県外で小学校の教員をしている私の高校時代からの友人が来てくれ、新聞じゃんけんゲームを子どもたちに教えたり、校外学習の引率をしたりしてくれました。3週目には、2年前の教え子で現在大学生の女の子が1週間、ボランティアでpeer tutorを務めました。青空キャンプのHPの「ボランティア募集」をみて自らスコット先生に連絡を取り、このボランティアに参加したのですが、彼女にと



っては初めての海外であり、ホームステイをしながらとても貴重な経験ができたようです。彼女の勇氣ある行動に感銘を受けるとともに、何事にも積極的に動いている様子を見てとても頼もしく思いました。最後の2日間は、以前の勤務校の先輩の先生方が2名、流しそうめんの手伝いをしてくださったり、お盆祭りの日には浴衣の着付けブースを担当してくださったりしました。浴衣の着付けブースは、3時間で20人以上も詰めかけるという大盛況ぶりで、これまでちゃんと浴衣の着付けをしてもらったことがないアメリカの子どもたちはとてもうれしそうで、写真撮影ではにかんだ笑顔がとてもかわいらしかったです。本当に4名の方々には大感謝です。

今年で4年目を迎えた青空キャンプ。昨年はネイティブの日本人の参加が1日しかなかったそうですが、今年はインストラクターの3名の他にも、1週目に3日間ボランティアで手伝ってくれたシアトルの方、そして日本からの4名と、たくさんの参加があり、子どもたちにとっても大変貴重な体験となったと思います。

3週間、一日中、日本語や日本文化の活動をするというのは、インストラクターにとっても、本当に大変でした。しかし、これまでやりたかった活動を実行できたり、新しく出会った子どもたちと仲良くなったり、SJSの授業であまり関わりのなかった高校生たちと人間関係を築けたりと、とても良い機会になりました。何より、子どもたちが楽しそうにしている様子をたくさん見ることができたことが、このキャンプでのいちばんの収穫です。

